

安全管理

基本的な
考え方

重機作業、掘削作業、高所作業等を伴う当社の事業では、「人命尊重」を基本理念として安全衛生管理を実行しています。災害事故撲滅に向けて、安全作業の徹底と安全な企業風土の醸成を目指しています。

安全衛生管理方針

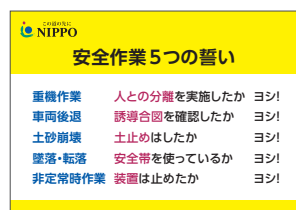
2018年度 安全衛生管理方針

【方針】
人命尊重を基本理念とし、全員参加で労働安全衛生マネジメントシステムを実行し、熱意を持って安全衛生管理水準の向上を目指す。

1. 安全作業5つの誓いを遵守し、労働災害を防止する。
2. 労働安全衛生法令及び安全衛生管理規程類を遵守する。

【目標】

1. 重機・車両災害、墜落・転落災害、土砂崩壊災害、非定常時災害を防止し死亡災害「ゼロ」を達成する。
2. 災害事故件数を削減する。(2017年度比20%以上削減)
3. 快適な職場環境づくりを推進し、健康の保持増進を図る。



2018年度安全衛生管理方針に則り、安全衛生目標を達成するために、次の項目について全社で重点的に取り組んでいます。

安全衛生管理水準向上

◆ 安全作業5つの誓い

過去に発生した重大な災害についてリスクアセスメントを行い『安全作業5つの誓い』を制定しています。

死亡災害ゼロを達成するために、最優先項目として、全社一丸となって完全実施に取り組んでいきます。

◆ 安全パトロールの実施

①事業所長、統括事業所、支店、本社がそれぞれパトロールを計画的に行い、安全衛生法令と社内規程類および『安全作業5つの誓い』の遵守状況を点検し、指摘があれば正させ、改善結果を確認しています。

②作業手順書通りの施工を確認しています。



私のCSR 関東第一支店 那須 巧

私は復旧営業所で主に東京ガス(株)様のガス管理設跡の復旧工事の施工管理を担当しています。新宿区という有数の繁華街での作業は他エリア以上に安全管理への注力が必要となります。歩行者が多く道路幅が狭い現場での重機・車両災害防止対策は最も取り組むべきことであり、他社、他事業所の災害事例を他人事とせず、既存の安全対策に不備はないのかを自問し考えうる最高水準の安全管理を目指します。

③不安全状態・不安全行動を「見逃さない・黙認しない・妥協しない」で見出し、改善することで事故防止に努めています。

◆ 労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)

当社の安全衛生管理システムが建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)に適合していることで、建設業災害防止協会から認定されています。現場と店社が一体となって、「P:計画-D:実施-C:評価-A:改善」で継続的に自主的な安全衛生管理活動を実施しています。

◆ 災害発生状況(度数率・強度率)

		2015年度	2016年度	2017年度
NIPPO [下請け工事含む]	度数率	1.17	1.39	1.45
	強度率	0.59	0.41	0.07
建設業	度数率	0.92	0.64	0.81
	強度率	0.21	0.11	0.18

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で災害の頻度を表す。
強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で災害の重さを表す。

安全教育

◆ 安全衛生に関する教育

本社、支店では、現場担当者に対してそれぞれの経歴に合わせて安全管理教育を毎年実施し、安全管理向上に努めています。また、協力業者の事業者責任教育と監視員教育にも注力しています。

安全意識の高揚

◆ ヒヤリハット活動の実施

現場従事者からヒヤッとしたりハッとした体験を積極的に収集し、災害事故が発生する前に改善するとともに、朝礼等でヒヤリハット事例を紹介することで、安全意識の向上を図っています。

◆ 安全標語の募集

従業員、グループ会社、協力業者から「死亡災害防止として不安全行動をしない・させない」ための標語を募集し、最優秀作品について垂れ幕、ポスターを作成して安全大会等で唱和し、安全意識の高揚を図っています。

品質保証体制

基本的な
考え方

お客様のニーズに応えた良質な製品を提供し、顧客満足度を向上させるとともに、経済活動を支える基盤としての社会インフラに貢献するため、継続的な改善に取り組んでいます。

品質保証体制

品質方針

確かなものづくりを通して、
人と社会の生成発展に貢献する。

1. 望まれる確かな製品を提供し、顧客・利用者の信頼を築く。
2. 後世に評価される技を磨き、技の大切さを教え、伝える。
3. 現状に満足せず、熱意と向上心をもって、品質改善に挑戦する。

◆ 品質マネジメントシステム

当社はISO9001に基づく品質マネジメントシステム(QMS)を取得し、設計・施工から引渡しに至るまで品質管理体制を運用・構築することにより継続的な改善と顧客満足の向上に取り組んでいます。

2017年度は、本社および3支店にて審査機関から外部審査(品質と環境の複合審査)を受けました。品質、環境において、より効果的な実効性のある管理体制にするための観察事項がそれぞれ5件ずつありましたが、不適合事項は0件であり、2017年12月に認証の維持継続が承認されました。

◆ 内部監査の実施

本社、支店および現業事業所において品質を含めた業務の改善、向上を図るため、毎年内部監査を実施しています。全ての業務が法令を遵守して実施されており、かつ社内規程類が効果的に運用され維持されているかどうかをチェックします。監査時に使用する監査チェックリストは毎年見直すとともに、指摘を受けた部署では是正処置を実施し継続的な改善を図っています。

◆ 経営者(社長)によるマネジメントレビュー

経営者(社長)は、マネジメントシステムに関連する外部および内部の課題、品質目標の実施状況、外部審査および内部監査結果等を反映させ、マネジメントレビューを半期に一度



私のCSR 関東第二支店 小野 航

工事担当として、顧客のニーズに即した“もの”を提供するため、品質に影響を及ぼすリスクを事前に排除するよう努めています。そのためには、使用材料の特徴や、工期・施工体制・工事特性などの様々な情報を整理し、リスクを洗い出す必要があります。自身の経験を過信せずに、上司や支店各部署に助言をいただくよう留意しています。

実施しています。当社のマネジメントシステムを適切、妥当かつ有効なものとし、戦略的な方向性(企業理念や行動指針)と一致させるために、見直しと必要な指示を行っています。

◆ NIPPOグループ改良改善事例発表会

2017年7月12日に本社において、第8回NIPPOグループ改良・改善事例発表会が開催されました。この発表会は、全国各地で行われている様々な取組事例の中で、改良・改善効果のあるものを、水平展開することを目的として行うものです。

各支店において審査を行って選び抜かれた全17編が今回の全国大会において発表されました。発表内容は、舗装工事・土木工事・合材製造・建築等様々にわたっていました。

今回も前回同様に、発表方法に趣向を凝らしたものが多く、白熱した発表会となりました。全発表終了後、改良・改善の効果と水平展開の価値に関して厳正な審査を行い、最優秀賞・優秀賞の4人が上位入賞として、ほか13人が優良賞として表彰されました。



NIPPOグループ改良・改善事例報告会

◆ 本社による工事施工監査の実施

より優れた品質の製品を提供し、お客様の信頼と満足の向上を図るため、工事現場ごとの各種検査とは別に、社内検査(工事施工監査)を実施し(2017年度:舗装土木部門78件、建築部門46件)、改善点の是正処置を行っています。

環境マネジメントシステム

環境方針

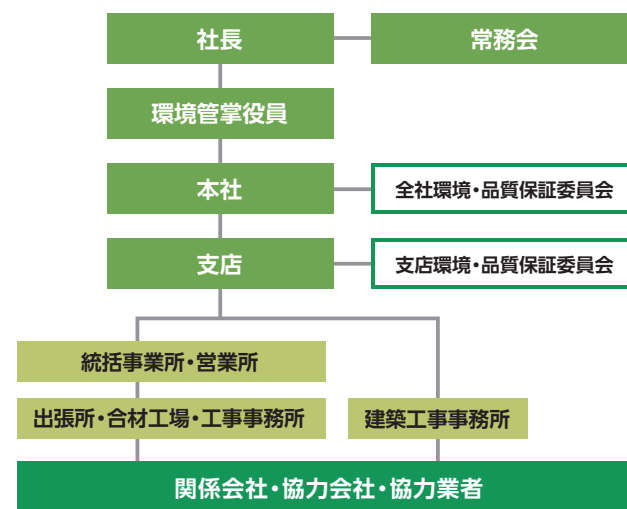
環境保護活動の継続的改善に努め、
生物多様性を考慮し、
「環境保全と経済活動の両立」する
持続可能な社会の実現に貢献する。

1. 環境法令を遵守して、
環境に配慮した事業活動に取組む。
2. 「地球温暖化対策」及び「循環型社会の構築」を
基軸とした環境保護活動により
環境負荷を低減する。

環境マネジメント体制

当社はISO14001:2015に準拠した環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。環境保全活動の継続的改善のため、環境側面や遵守義務および内外の課題やニーズ等に関するリスクや機会を考慮して、環境活動の基本方針・目標などを全社環境・品質保証委員会において審議し、全社に展開しています。全社で環境保全活動計画を策定し、地域の特性に応じた環境保全活動を推進しています。

●環境マネジメント体制図



私のCSR 九州支店 今田 祐二

当事業所では環境法令を遵守して適正な事業活動を推進しています。正しく法令を知るため毎年定期の環境教育で環境法令を学びます。そして、産業廃棄物最終処分率を低減するため、分別化を徹底し再資源化率向上に取り組んでおります。また、事務処理の効率化を図り処理データの透明性を確保するため電子マニフェストを導入しています。

環境保全活動の取り組み

◆ 環境法令の遵守

廃棄物処理法をはじめとする関係法令の理解促進と法令を遵守した業務遂行にあたるため、毎年6月に全従業員を対象として環境教育を実施しています。

また、全事業所で事業活動における遵守義務をまとめた「環境法令チェックリスト」により、年2回遵守状況を評価し必要な処置を実施するとともに、環境点検を毎月実施して廃棄物の適正処理と環境法令違反や環境事故を未然に防止する取り組みを行っています。

◆ 地球温暖化防止対策

当社のエネルギー使用量の大部分を占める合材工場では、燃料の変更や設備更新などの改善を推進して、エネルギー使用量の削減に努めています。(P23・24参照)

また、2018年に新築した本社ビルは内部にガラスで囲う空間を設け夏期の冷房負荷軽減と冬期の断熱性能向上を図っています。併わせて太陽追尾センサー機能を持つ大型ブラインドが組み込まれているなど環境に配慮した仕組みによって国土交通省が主導する建築環境性能評価(CASBEE)の最高ランクであるSクラスを取得しています。

◆ 循環型社会の構築

建設現場から発生する廃棄物の再生利用のため、アスファルトおよびコンクリート塊のリサイクル事業の運営や廃棄物の発生を抑制する再生工法の提案と施工を行っています。また、廃棄物の再生化を促進させるため、廃棄物の種類ごとの分別化を推し進め、最終処分率の低減に努めています。

◆ 環境負荷の低減

事業活動における環境へのマイナス影響を低減させるため、CO₂排出抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクルなどの環境負荷の少ない工法の開発に努め、工事への採用を積極的に提案しています。

当社ホームページ「技術情報」

URL https://www.nippo-c.co.jp/tech_info/enviro/index.html

基本的な考え方

持続可能な社会の実現に貢献するため、限りある地球資源の有効活用と気候変動への対応は企業としての社会的責任であるという認識の下、事業活動において排出されるCO₂や産業廃棄物の削減・リサイクルに向けた取り組みを、全社をあげて行っています。



●2017年度の目標と実績および2020年度中期目標※1

項目	目的	2017年度の目標	2017年度の実績	評価	2020年度の目標(中期目標)
環境法令の遵守	法令違反 ゼロ	法令違反 ゼロ	0 件	○	0 件
		環境教育の実施 (勉強会、講習会) 全従業員1回以上	全従業員100%実施	○	1回以上/全従業員 (100%)
地球温暖化対策	エネルギー使用量 (原単位)の削減	2014年度比3.0%削減 (39.3KL/億円以下)	2014年度比67.7%削減 (13.1 KL/億円)	○	2017年度比3.0%削減 (12.7KL/億円以下)
循環型社会の構築	産業廃棄物の 最終処分率低減	0.8%以下 (ゼロエミッションの継続)	0.38% (ゼロエミッションの継続)	○	0.8%以下 (ゼロエミッションの継続)
環境負荷の低減	環境配慮型工法※2の 技術営業推進	100 億円	146.1 億円	○	110億円

※1 2017年度の実績を踏まえ中期(3カ年)目標を策定

※2 環境配慮型工法とは「CO₂排出抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクル、土壌浄化に資する工法」とし、具体的には「遮熱性」「保水性」「エコ商品」「エコファイン」「表面処理」「クレイ系」「木質系」「天然芝」「FRB工法」「スタビ工法」の10工法および「土壌浄化」を対象としています。



環境勉強会

SDGs※3に対するNIPPOの取り組み

当社はSDGs達成のために、CSRレポートに掲載されている環境保全活動や環境技術の開発、社会貢献活動、働き方改革などの取り組みを実施しています。

また、生物多様性の保全・創出に貢献する土壌浄化事業や工事施工時に生物多様性に配慮した計画(希少動植物の保全のための立ち入り禁止区域の設定、繁殖時期を考慮した工程)とするなど、持続可能な社会の実現に向け様々な取り組みを実施しています。2018年6月に実施した環境教育ではSDGsのテーマも取り上げ、従業員への周知と理解の促進を図っています。

※3 SDGsとは
2015年9月に国連で、全会一致で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」をいう。国連加盟国193カ国が2030年までに達成を目指す17分野の目標とより具体的な169のターゲットで構成されている。

私のCSR 中部支店 岩島 彩乃

中部支店では、昼休みに受付以外を消灯することと、人がいない場所では電気・エアコンはオフにすることを励行しています。電気とエアコンのスイッチは色分けしてどこのものか分かるようにしてあります。部署で最後に帰宅する人は、自部署の電気・エアコンを必ずオフにしてから帰るように呼びかけています。

舗装事業における環境保全活動

環境型リサイクルへの取り組み

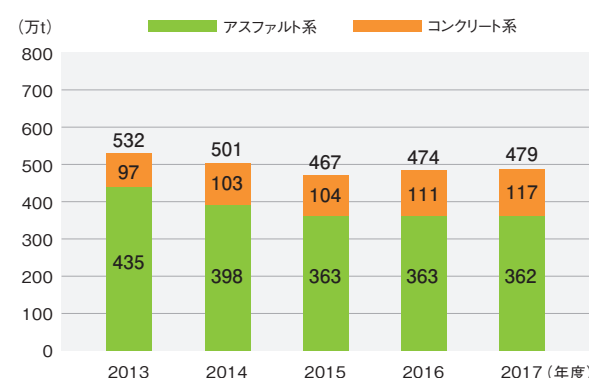
アスファルト合材工場では、資源の有効利用を図るため、建設副産物や他産業副産物のリサイクルに取り組んでいます。

◆ 建設副産物のリサイクル

当社は1970年代前半から、当時としては珍しかった「アスファルト舗装リサイクル技術」の研究に取り組み、現在に至る技術やシステムをほぼ確立して全国に展開しました。現在、全国に155カ所のアスファルト合材工場を保有していますが、このうち150工場でアスファルトやコンクリートのがれき類（建設副産物）を受け入れ、155工場で積極的に骨材として再利用し、再生合材、再生路盤材として製造・販売しています。

再生合材の製造比率は、2005年以降70%を超えており、再生資源の有効活用を推進しています。

● 建設副産物受入量の推移



◆ 他産業副産物のリサイクル

1981年からは、家庭から出る一般廃棄物の焼却灰を処理して発生するゴミ溶融スラグをアスファルト舗装材料の一部として有効利用する研究を開始し、その技術を確認しました。

現在では、こうした取り組みを核に、全国の工場で、アスファルト舗装をその品質を低下させることなく、他産業から出る副産物を適正に処理して舗装材の一部に有効利用する

などの積極的な活動を行っています。

◆ アスファルト合材工場での環境・安全配慮

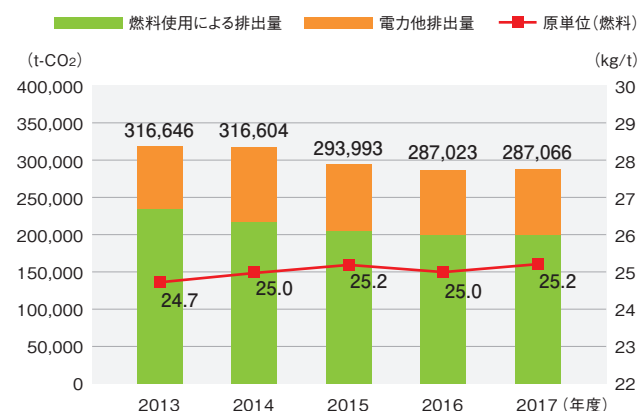
アスファルト合材工場では、化石燃料や電力などを使用してアスファルト合材等を製造していますが、周囲の環境に悪影響を及ぼさないよう、細心の注意を払い、対策を行っています。

◆ CO₂排出量の削減

アスファルト合材の製造に伴って生じる二酸化炭素（CO₂）の排出量を削減するため、燃料を重油類から、都市ガスや灯油等へ徐々に切り替えを進め、省エネルギー型の設備や機器類も積極的に配備しています。2017年度末現在、都市ガス化した合材工場が18カ所、省エネルギー型の高効率バーナ（空気が低く、広範囲の燃焼制御が可能）を導入した合材工場が86カ所となっています。



● 合材工場CO₂排出量の推移（グループ工場含む）



基本的な考え方

舗装工事やアスファルト合材の製造事業では、様々な工程で排出物や廃棄物が生成されます。当社は製造工程や流通などにおける環境負荷低減や資材リサイクルを促進することが、当社の社会的責任を果たすことだと考えています。

◆ 大気汚染対策

工場周辺の空気を汚さないよう、定期的に窒素酸化物や硫黄酸化物、ばいじん等の排出量を測定・管理しています。また、法令基準より高い性能の集じん機を整備し、製造工程の様々な箇所に、粉じんを飛散させないような設備等を設けるなどの対策を行っています。

● アスファルト合材工場からの大気汚染物質排出量 (トン/年)

種 類	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
窒素酸化物 (NO _x)	104.5	103.1	84.6	96.0	80.4
硫黄酸化物 (SO _x)	103.9	104.6	86.1	76.1	80.2
ばいじん	65.3	39.9	33.2	50.5	35.9

上位50工場のサンプリングからの推計で、サンプル率は60%となっています。



舗装現場での環境配慮

舗装工事の際の主な環境負荷には、施行機械等による騒音、排出ガスによる大気汚染、CO₂、産業廃棄物の排出などがあります。

● 施工機械の環境対策整備状況 (台)

	2015年度			2016年度			2017年度		
	保有	対策	率(%)	保有	対策	率(%)	保有	対策	率(%)
排出ガス対策型	91	82	90	72	63	88	49	46	94
低騒音型	185	170	92	160	145	91	123	118	96

◆ 施工機械の騒音・排出ガス対策

舗装工事に使用する施工機械は順次、環境負荷の少ない排出ガス対策型・低騒音型に切り替えています。2017年度までに、保有機械の94%を排出ガス対策型に、96%を低騒音型に切り替えました。

対策済みの施工機械は、主に規制対象地域で使用していますが、対象地域以外でも積極的な使用を推進しています。

◆ CO₂の削減

施工機械や資材を運搬するダンプトラック等のアイドリングストップを推進しています。また、施工機械は更新時に、低燃費型に切り替えています。

◆ 産業廃棄物の排出管理

全ての部署、事業所で発生する産業廃棄物の分別を徹底するとともに、部署ごとに排出量を種類別に管理し、再資源化・省資源化計画を立てて実行しています。産業廃棄物量に占める最終処分量の割合は、2013年度が0.39%、2014年度が0.45%、2015年度が0.49%、2016年度が0.58%、2017年度が0.38%と、目標とする0.8%を下回っています。

◆ 輸送行程での環境配慮

輸送行程での主な環境負荷は、ダンプトラック等の燃料消費に伴うCO₂の排出と騒音です。

アスファルト合材の材料となる骨材の運搬は、自動車輸送から海上輸送へ切り替えを進めており、一定量（全骨材使用量の約5%）を海上輸送にて行っています。2013年度20万トン、2014年度18万トン、2015年度18万トン、2016年度14万トン、2017年度20万トンの骨材を海上輸送により受け入れています。

また、ダンプトラック使用時には、アイドリングストップやエコドライブに努めるように、運送会社を指導しています。

私のCSR 東北支店 菊地 恒

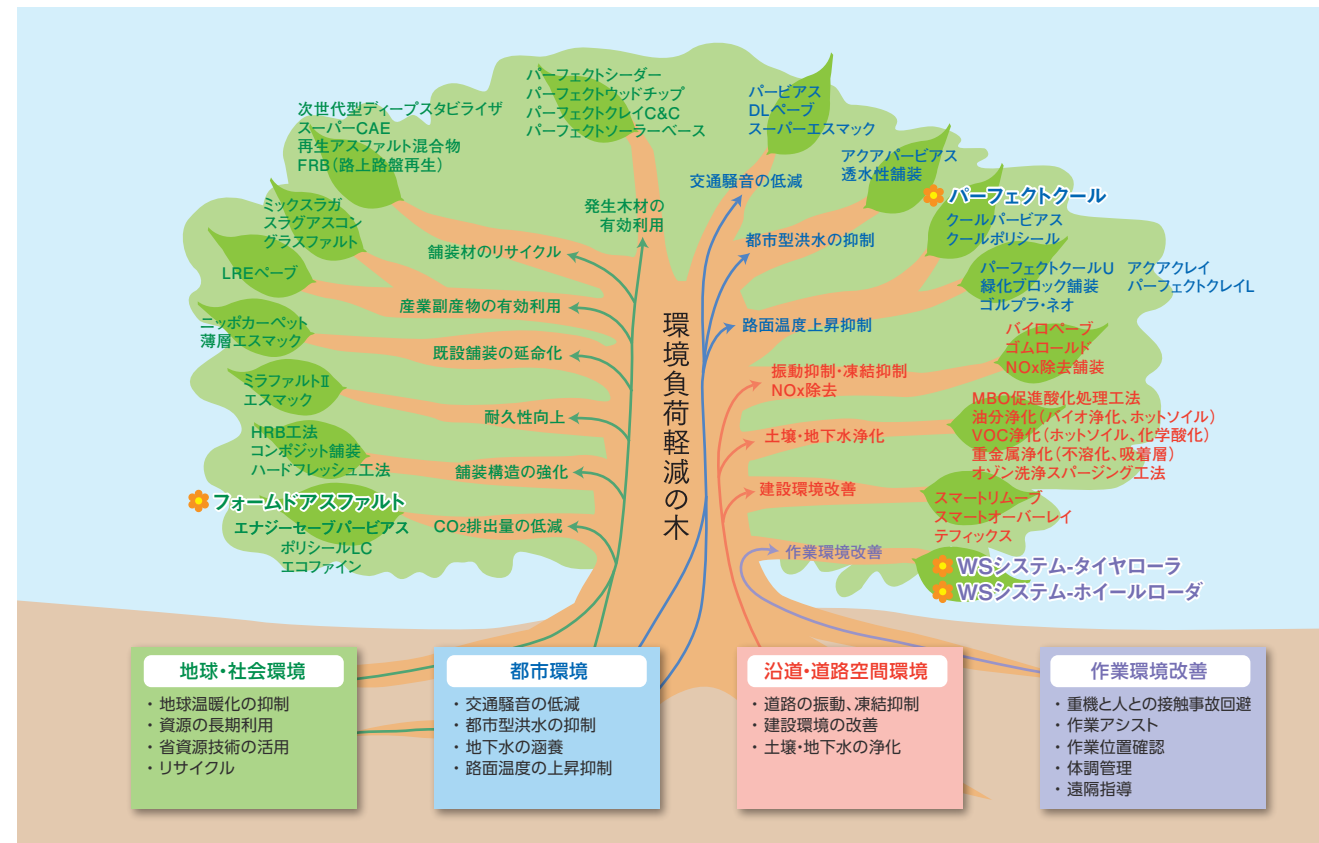
東北支店では、月初の朝礼後、従業員で周辺道路および公園等の清掃活動を行っています。道を作る会社で働く身として、道路を綺麗にする活動はとても身近なことと感じ、地域に根付いた企業活動を意識し参加しています。周辺住民とのコミュニケーションも図れ、NIPPOのイメージアップにつながればとの思いで今後も積極的に行っていきたいと思っています。

私のCSR 本社工事部 下池 恭平

私が従事している現場では、環境保全活動のために、舗装工事で使用する重機に着目し、低振動・低騒音の舗装重機を使用しています。また、産業廃棄物のリサイクルを促進するために、再生骨材を現場で使用しています。施工管理業務の中には、環境保全活動も含まれるので、これからも環境への意識を高く持ち、現場へ従事していきます。

舗装事業における環境・安全対策技術

環境舗装・資材のラインナップ



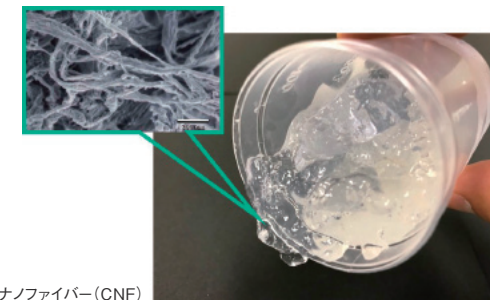
基本的な考え方

舗装事業では、事業活動の中での環境負荷低減だけでなく、材料・製品・舗装工法を通じた環境負荷低減にも力を入れるため、新しい環境技術の開発に努めています。当社は長年の取り組みで培われた独自の技術力を活かし、人・都市・地球環境に配慮した技術開発を進めています。

◆ さらに進化する遮熱性舗装「パーフェクトクール」

セルロースナノファイバー（CNF）は、鋼鉄の5分の1の軽さで5倍以上の強度を持つ、農業廃棄物などを原料とする高機能材料です。植物由来であることから持続可能な社会を支える技術として注目されており、近年は普及に向けた取り組みが実施されています。

エマルジョン系遮熱性舗装は、これまで主に軽交通道路への適用に限定されていましたが、CNFを遮熱塗料と組み合わせることで、丈夫な塗膜による耐久性の向上が期待できます。将来的には、エマルジョン系遮熱性舗装の重交通道路への適用を目指して、さらなる研究開発を進めていきます。



セルロースナノファイバー（CNF）



皇居外苑桜田門前

舗装時の安全対策技術

◆ 第三者機関に認められた止める安全「WSシステム-タイヤローラ、ホイールローダ」

WS(Worker Safety)システムは、当社が利用している建設機械が人やものに近づいた際に、停止を補助するシステムとして開発され、社内において展開されています。これらの

当社が開発した自動停止装置付きタイヤローラ／ホイールローダ(WSS-TR、WSS-WL)は、「Safety2.0適合マーク審査登録制度」に合格し、2018年2月に全産業を通じて第一号として登録されました。

Safety2.0適合マーク審査登録制度とは人やモノが協調して安全を確保しようとする新しい安全概念で、(一社)セーフティグローバル推進機構が創設したものです。

Safety2.0適合に求められる技術的定義は次の3つでWSシステムは、これらを満たすことから審査に合格しました。

- ① ヒト・モノ・環境等の各構成要素を情報(ICT)でつないでいる
- ② リスク関連情報(危険・安全情報)をモニタリングし、発信している
- ③ (リスク関連情報を受けて)自律的、あるいは他律的な制御により安全側に導いている

当社は、今回の適合を受け、当システムの安全の質の高さを確保し続け、さらにICT活用による安全技術の開発、展開を加速し、重篤災害ゼロを目指し取り組んでいきます。

Safety2.0登録証書を囲んで



● システムのイメージ



WSS-TRイメージ



WSS-WLイメージ

環境舗装技術

◆ アスファルト混合物の品質確保に資する新しい試み「フォームドアスファルト」

フォームドアスファルトは、高温のアスファルトに水分を添加することで、アスファルトが泡立った状態(フォームド)にする技術です。この技術を加熱アスファルト混合物に用いると、製造時はアスファルトの容積が増大して混合作業が容易になります。また、施工時はアスファルト中に残った微細泡のベアリング効果で締固め作業が容易になることでアスファルト混合物の品質が向上します。さらに、高性能なフォームド発生装置や発泡改善剤などを使用すると、中温化効果による加熱製造時の温度低減や再生加熱アスファルト混合物の再

生率の向上により、CO₂排出量を抑制することができます。このようにNIPPOグループは、フォームドアスファルト技術を導入することにより、出荷する加熱アスファルト混合物の品質向上や環境負荷の低減に寄与していきます。



フォームド発生装置(左)と発泡改善剤の外観

私のCSR 総合技術部 室井 和也

私が在籍する技術研究所では、当社の企業理念にある「確かなものづくり」を実現するために、より良い材料の開発や特殊工法の現業支援を行っています。特に私は現業支援に携わることが多く、顧客に満足していただける品質を追求していくためにも、妥協せずに綿密な計画を立て、現場では臨機応変に対応できるよう心掛けています。

私のCSR 関東第二支店 清水 信宏

当事業所で行っている成田空港内の夜間工事においては、工区も多岐にわたるため、日々相当数の人員・重機・車両が稼働しています。夜間工事の最大の問題点は「不明瞭さ」です。電光掲示板や多色発光型の反射ベスト等、自発光式の安全施設を積極的に導入することで、視覚的に分かりやすい「安全の見える化」を実践し、現場内の安全確保に日々努めています。

建築事業・開発事業・土壌浄化事業における環境・安全配慮

基本的な考え方

当社は「建築事業」「開発事業」「土壌浄化事業」も展開しています。いずれの戦略事業でもNIPPOらしい独自の環境・安全面の対応を行うために、様々な技術開発や取り組みを行っています。

開発事業における環境・安全配慮

開発部門では、環境と安全に配慮し、永く安心していただける住環境の提供を柱とした不動産事業を全国で展開しています。

●不動産事業推進、展開ポリシー

従来の発想に捕らわれず、時代の一歩先を見つめながら、エンドユーザーの立場で

安らかさ 心地よさ 豊かさ

の創造を追求し、常に歩み続けます。

価値ある商品企画を必須業務として

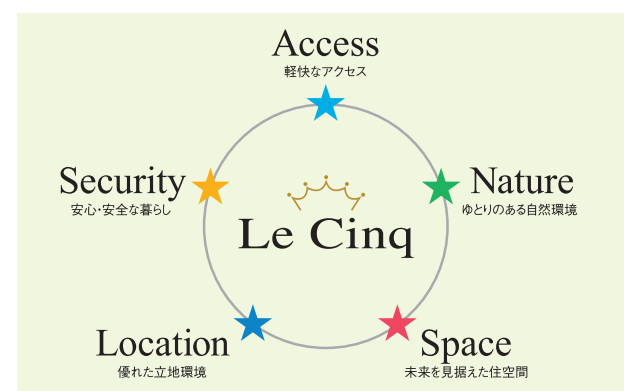
環境重視思想 安全性の高い商品の供給 資産価値の高い街・住まいの創造

をコンセプトとして事業推進しています。

◆ マンション分譲事業

マンション事業は、5つの価値を重視し、「ル・サンク (LeCinq) シリーズ」として展開しています。

●5つの価値を追求するル・サンクシリーズ



地域特性を把握し、未来を見据え、敷地分析、建物計画、吟味した設備仕様を整えた「資産価値の高い」マンションの開発供給に取り組んでいます。現在、マンション供給総戸数は8,500戸となり、三大都市圏を中心に札幌、盛岡、仙台、広島、福岡、那覇の主要都市にて事業を展開しています。

◆ 環境に配慮した取り組み

マンション分譲事業では、周辺環境・地域特性を配慮した様々な取り組みを実施しています。都市開発事業では、既存市街地を計画的に整備し、都市機能の更新や環境の改善を図っています。

【環境に配慮した商品の採用】

- エコジョーズの採用
- エコキュートの採用
- 温水ルームヒーターの採用
- 一括電力採用
- 屋上緑化

【2017年度完成マンション事例】



ル・サンク東京森下



ル・サンク東京森下(屋上緑化設置状況)



ル・サンク愛宕



ブラウドタワー名古屋栄

◆ マルチテナント型物流施設「ロジポート堺」竣工

当社、ラサール不動産投資顧問(株)、三菱UFJリース(株)の3社共同で開発を進めていたマルチテナント型物流施設「ロジポート堺」が2017年4月に竣工しました。

屋上には太陽光発電を備え付けており、環境や省エネルギーに配慮しています。また、BCP対策として、24時間・365日の有人管理や防災備蓄庫を備えるなど、安全にも配慮した施設となっています。



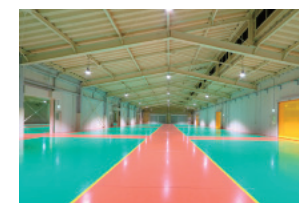
ロジポート堺

建築事業における環境・安全配慮

建築事業では建物の計画・設計段階から環境負荷低減に取り組み、施工段階では産業廃棄物削減、エネルギー使用量削減の具体的な数値目標を設定し、環境保全活動の強化を図っています。

◆ 設計段階での提案・施工事例

計画・設計段階では、建築環境総合性能評価システム制度を利用した環境配慮設計に取り組み、建物のライフサイクルエネルギー使用量削減に向け、太陽光発電、壁面・屋上緑化、熱負荷コントロール、太陽光追尾センサー、LED照明などの採用をお客様に提案しています。



高出力型LED照明採用事例



屋上太陽光発電設置事例

◆ 施工段階での取り組み事例(省力化工法)

施工段階ではプレキャスト工法、ユニット工法などの省力化工法採用を推進し、産業廃棄物削減、エネルギー使用量削減、品質の安定化、安全確保を図るとともに、技能工不足への対応にもつながっています。



床PC版施工事例



鉄筋ロールマット工法事例



マイクロバブルオゾン促進酸化処理装置

環境事業(土壌浄化事業)における環境・安全配慮

国民の健康被害を守るために作られた「土壌汚染対策法」は、2010年の法改正から8年が経過し、社会環境と不調和となる課題が明らかになったことを受けて、2段階での政省令改正が施行されます。

第一段階は2018年4月に、第二段階は2019年に施行される予定です。当社はこの改正に対して的確に対応していきます。そして、当社が保有する技術をフル活用して、土質・工事期間・周辺環境等、様々な要素を考慮し、環境・安全に配慮した提案を行います。

なお、私たちは、土壌汚染対策法の施行前から土壌浄化事業に取り組んでおり、2018年3月末現在、土壌浄化工事1,428件、土壌調査2,603件の実績があります。

◆ 土壌浄化工事での周辺環境配慮

当社が開発した「マイクロバブルオゾン促進酸化処理装置」は従来の水処理装置に比べ低振動・低騒音構造となっており、それに加え、省電力構造も備わっています。そのため、稼働中の工場においては、工場の生産ライン等に影響がないよう振動を抑えることができます。

また、市街地での工事では、振動や騒音による周辺住民の生活環境への配慮も可能です。さらに、想定外の汚染水の流入に対しても、その場で無害化できるため、環境事故を起こすことなく、安心して敷地外へ放流ができます。

周辺環境に配慮することはお客様の安心につながることから、私たちはこれからも継続して周辺環境への配慮を行っていきます。

私のCSR 中国支店 棧 太郎

私は高速道路の舗装修繕工事に従事しています。作業エリアのすぐそばを高速で車両が通行するため、小さなミスやヒヤリハットが重大事故につながりかねません。私自身が現場での不安全行動・不安全状態を発見、指摘するだけでなく、現場にいる全作業者が互いに声を掛け合い、注意しあうことができるような環境づくりを心掛けています。

私のCSR 九州支店 青山 優人

私が従事する南九州統括事業所では、社会貢献活動として毎月第3水曜日に事業所周辺の清掃活動を行っています。事業所を海に囲まれている関係上、海風で運ばれてきたゴミや釣りゴミ等が多く溜まる問題があります。今後も継続的に清掃活動を実施し、良き企業市民として社会貢献をしていきたいと思っています。